

# 事業の状況

## 金融経済環境

当中間期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、経済社会活動正常化に向けた各種政策の効果もあり、企業収益や雇用情勢が持ち直しの動きとなりました。

当行の主要基盤である北部九州の経済につきましても、生産活動において一部原材料価格高騰の影響がみられるものの、個人消費や雇用が増加基調にあり、景気の持ち直しが続いております。

金融業界につきましては、マイナス金利政策が継続する資金運用環境下、企業向け貸出や個人ローンマーケットにおいて、金利は極めて低水準で推移しています。一方、今後、米欧の政策金利引き上げによる内外金利差の拡大や、急速な円安による為替動向等が与える影響について、充分注視する必要があります。

## 2022年度中間期の業績等

このような経済情勢の中で、グループ役職員一同総力をあげて業績の一層の進展と経営の効率化に努めて参りました。2022年度中間期の業績は次のとおりです。

### ◆預金、貸出金等

当行グループの財政状態につきましては、当中間連結会計期間末の預金残高は前中間期末比で935億円増加、前期末比では584億円減少の2兆7,292億円となり、貸出金残高は前中間期末比で2,205億円増加、前期末比で647億円増加の2兆2,107億円となりました。

有価証券残高につきましては、当中間連結会計期間末残高は前中間期末比で953億円増加、前期末比では616億円増加の7,246億円となりました。

### ◆損益状況

当中間連結会計期間の連結経営成績につきまして、経常収益は、貸出金利息や有価証券利息配当金の増加を主因として資金運用収益が増加したことや、役員取引等収益が増加したこと等により、前年同期比12億3百万円増加し234億39百万円となりました。

経常費用は、営業経費や、貸倒引当金繰入額の減少を主因としたその他経常費用が減少したこと等により、前年同期比15億42百万円減少の172億76百万円となりました。

この結果、経常利益は、前年同期比27億46百万円増加し61億63百万円となりました。

また、親会社株主に帰属する中間純利益は、経常利益の増加を主因に、前年同期比26億48百万円増加し47億12百万円となりました。

### ◆当行単体の業績

当行単体の業績につきましては、経常収益で前年同期比12億16百万円増加の198億32百万円、経常利益で前年同期比28億82百万円増加の63億72百万円、中間純利益で前年同期比27億40百万円増加の50億26百万円となりました。

当行単体の財政状態につきましては、当中間会計期間末の預金残高は前中間期末比で935億円増加、前期末比では585億円減少の2兆7,339億円となり、貸出金残高は前中間期末比で2,201億円増加、前期末比では645億円増加の2兆2,190億円となりました。

有価証券残高につきましては、前中間期末比で954億円増加、前期末比で616億円増加の7,320億円となりました。